

目標ができて楽しい毎日に

Uターンで舞鶴に帰り、たまたま見た書道の展示で同じ町内の知り合いの作品を見て興味を持ちました。講座が近くでやっていたのと友達がほしい、字がうまくなりたいと思い臨池会に通いました。参加しているうちに展示に申し込むようになり、最近では市展や合同作品展に出展できるように挑戦しています。書道は書くだけでなく、発表の場があるのも魅力の一つですね。公民館で開かれる健康体操なども参加していますが、男性の講座参加が少なく、もっと増えたらうれしいです。

書道教室受講生 布川弘さん



書道を通じたご縁を大切に

臨池会は先代から引き継ぎ、何を聞かれても応えられるようになりたいと思い、専門学校で書道を学び講師に。たくさんの講座を持っていますが、字は個性がありひとつとして同じものはありません。生徒1人ひとりも同じように個性があり、どの講座でも1人一回は話すようにしています。生徒の皆さんからおはようございますなどあいさつをされるとうれしくなります。書道を通じたご縁で毎日が楽しく充実しています。

書道教室講師 山崎洋子さん



▲書道教室で短冊の書き方のアドバイスをする山崎さん(左)

学び×還元

中公民館を中心に活動し、書道教室を手掛ける「臨池会」。家にいるとだらだらしてしまう人も、週に一度、教室に参加し、字に向き合うことで集中することが出来ます。講師の山崎洋子さんは、この臨池会の他にもたくさんの書道教室を受け持ち、現在80人を超える生徒を教える先生です。また、自分ももっとスキルアップしようと市外へ学びに出かける生徒でもあります。2年に一度、中公民館

で山崎さんの生徒による書道展を実施するなど書道の魅力を発信しています。同じく、中公民館を拠点に絵手紙教室を開催する小原清子さん。絵手紙は交換相手と1対1でやりとりをします。作品は、評価をせず、お互いの感性を認め合います。さらに、小原さんは地域のサロンの立ち上げや人数の少なくなったサロン同士の結び付けにも奮闘しています。

絵手紙をきっかけに

仕事を定年退職し、ふと見かけた絵手紙の展示をきっかけに興味を持ち、絵手紙の教室に通いました。習うだけではもったいないと思い、指導者講習を受けて講師になり、生徒の皆さんと一緒に活動を続けています。絵手紙は上手下手がなく、相手を思い、心を込めて描き、相手に渡して作品は完成します。私も一人暮らしで人との関わりが少なかったのですが、絵手紙でたくさんの人とつながることができ、一人暮らしが増えてきた今だからこそ人との関わりが大切だと思います。

絵手紙教室講師 小原清子さん



自分だけの大切な時間を

夫の転勤で舞鶴へ来て1人で子育てをしている時は孤独感がありました。回覧板で書道講座を知り、受講してみると知らない知識や幅広い年齢の人との出会いがありました。学校が休みの日などは子どもも連れて参加し、受講生や先生に支えられて最後まで続けられました。書道はどこでもできるので引越してもいつでも再開できます。家事や子育て、仕事など人それぞれのライフスタイルがありますが、少し離れた「自分だけの大切な時間」を持っていいのではないのでしょうか。

書道教室受講生 田村美穂さん



学生×地域貢献



▲開会を宣言する園児たち



▲司会を務める中垣さん

各公民館で活動する地域の人が、日ごろの成果を披露する「ふれあいサンデー」。城南会館は11月10日に開催され、会場には保育所・幼稚園から高齢の人まで地域のあらゆる世代が集まりました。子どもや孫の出番を真剣に撮影する家族の皆さんや出番を終えて芝生の広場を走り回る子ども達と、まさに地域全体が集える場になっています。

城南会館のふれあいサンデーでは、地域のふれあいサンデーでほかの地域にはない特長と言えるのが、司会を務める学生の姿。同館では、例年司会を西舞鶴高校の放送部が担当しています。日ごろは校内の昼休みの放送やアナウンス、スピーチの大会練習などに取り組む同校放送部は、近隣地域の中でも高い実

「声のチカラ」で地域に貢献

校内放送や大会と違って、地域の皆さんへの放送なので、言葉遣いや話す速度も意識して変えています。また、参加された人から司会のお礼を言ってもらえた時にはとても達成感が感じられました。進学で一度は舞鶴を出ると思いますが、地元に戻るならラジオのパーソナリティなど話すことを仕事にできたり、地域の催しに司会で呼ばれるようになって地域に貢献できたらと思っています。

西舞鶴高校放送部 中垣友太さん



▲臨池会の書道教室



▶絵手紙教室